

## 第3回 高梁市地域防災力向上委員会 発言要旨（主なもの）

日時：令和2年7月31日（金）

10時00分～12時00分

場所：高梁市図書館 4階 多目的室

### 1. 開会

### 2. あいさつ

（三村委員長）

本委員会も第3回ということで、このコロナ禍の影響がありますので、なかなか思うに任せないというところもありますが、確実に前に進んで来ていると思っております。それぞれの立場から、具体的にどう関わって防災力を向上していくのかというところ、具体的な検討のステージに入ってまいりますので、よろしくお願いいたします。

### 3. 議題【各項目についてそれぞれ事務局から説明後、意見交換】

（1）市民・自主防災組織向けアンケート結果の報告について

<意見交換>

（氏原副委員長）

アンケートで見えてきたことは、多くの方々があまり防災対策をやっていないということ。また、年齢層で差があると思われるので、その辺りの把握を事務局でやっていただいた方がいいと思う。どこも高齢者と若者の分断が進んでおり、問題となっている。世代を意識的にミックスさせないと難しい。何をやっていかないといけないのかの糸口は少し見えてきた。

（柏原委員）

アンケートの回答で地域の安全性・危険性について、ある程度安全・ある程度危険・安全とも危険とも言えない・わからないと回答された方が多く、地域の災害リスクを正確に把握されていないと思われる。災害を我が事として捉えていただくために、災害リスクをしっかりと把握していただくことが重要である。

（中村委員）

消防団は有事の時は災害現場に行き、地元のことは自主防災組織の中にいる消防協力隊や団のOBが中心となって活動する。北山の訓練では、消火栓を使った放水訓練や消火器を使った消火訓練とか、消防団がいなくてもできるような訓練を行っている。

（神田委員）

地域の中でも年齢や住んでいる所によって防災意識が多様化しており、まとまらないという課題があると思う。住民と行政の仲立ちをして多様な意識をまとめていく仲介の人が必要ではないかと思う。

（2）自主防災組織の設立支援等モデル地区選定及び取組状況の報告について

<意見交換>

（柏原委員）

非常にいい取り組みである。モデル地区の目標は何か。

### **(事務局)**

地域ごとに事情は異なるが、成美地区では町内でできないことをコミュニティが支援していく体制の整備も含めた地区防災計画や、地域の危険個所を把握しての防災マップの作成である。

(3) 高梁市地域防災力向上の目標・行動計画(案)について

(4) 令和2年度の実施事業(報告事項)について

(5) 今後のスケジュールについて

### **(事務局)**

補足として、避難所運営マニュアルですが、地域の方も一緒に運営していくかたちになっていますが、地域の方々と一緒にやっていきたいと思いますという枠組みのところはまだできていませんので、マニュアルができただけという状況です。

感染症対策避難所マニュアルを策定しているが、訓練で避難所1か所当たりの職員数を約2倍に増やして8名で対応したが不足した。例えば10名で対応した場合、市の指定避難所が120箇所あり、全て開設した場合1,200人必要になり、職員が足りない状況になる。市の内部の会議では、市で開設する避難所は職員の人数を増やす必要があるため、地域ごとの大きな避難所を職員が開設し受け入れをしていく。それから、地域で開設していただけるような避難所を募集して、やっていく方法も必要ではないのかという議論も出ている。

<意見交換>

### **(小川委員(代理:鈴鹿主幹))**

避難所の数に対して、行政の職員の絶対数が足りないことと、時間的な問題で開設したらすぐに避難者が押し寄せてくる可能性がある。そのためにも、地元の自主防災組織等に避難所を運営してもらうことが必要だと考えます。その前提として、事前に市と地元団体が協定を結んでいけば動いていただけるのかなと思う。県で開催しているコロナ禍での避難所開設の会議のなかでも講師の方々からも、同じような発言がありました。

### **(渡邊委員)**

共助のなかで要支援者をどのように扱うのかといった具体的な方策が示されていない。まず必要なのが、要支援者がどこにどういう形でおられるのかの把握だと思います。そして、災害時には要支援者をどういうふうに避難所へ誘導していくかということをお願いしたい。

### **(三村委員長)**

要支援者は肝のところだと思います。「自助」でできるのか、無理だから地域で助けられるのはどこまでなのか、地域で救えないところは「公助」がどこまで責任を持ってやっていくのかを地区ごとに把握される体制を作り上げていくことが最終的には必要であると思います。

### **(事務局)**

要支援者名簿については、これまで民生委員に協力をいただいております、今までは福祉分野の情報に限られていましたが、教育や健康づくりといった様々な分野の情報をきちんと整理し一元的に管理し、対象者の同意をいただいて、関係のあるところへ提供ができるかたちまでを整備をしていくことを考えていますので、皆様のご協力をお願いしたい。

### **(氏原副委員長)**

要支援者については、目を背けることができない問題。地域で共有しシステムが機能するよう、共助の取組みの中に要支援者の項目が入ってくるべき。共助の中の一つの軸として考えてもらった方がよい。

**(蜂谷委員)**

防災教育について、具体的にどういったことを考えているのか教えてほしい。

それと、河川監視カメラについては、吉備ケーブルで放送用のチャンネルを作っている。上流の新見市のカメラ映像も放送するよう、仕組みを考えている。ダム放流による水位上昇が事前に分かるようなチャンネルになると思う。

**(事務局)**

防災教育についてはマイタイムラインを学校で行い、児童・生徒が家庭へ持ち帰っていくことを考えている。

**(氏原副委員長)**

小・中学校へ行って、児童・生徒向けや教職員向けに話をすると、「この内容だったらPTAや自主防災組織の方にも参加してもらったら良かった。」と必ず言われる。連携しないといけない話が多く、学校だけでは完結しなくて、最初から小・中学校をネットワークの拠点として活用して発信していくのがいいのかなと思っています。それと、出前講座をすると高齢の方がたくさん集まっていただけだが、高齢の方が集まるイベントには、なかなか若い人が集まらない。一方で、若い人が集まる場所を高齢の方に周知すると、喜んで来ていただけることが多い。最初のアプローチの仕方を工夫することもいいのかなと思う。

**(三村委員長)**

各地域の組織の連携が重要になっており、地域コミュニティとの一体化がないと防災はできないが、それが出来そうで出来なくて難しい。人口の多い都市では難しいが、高梁市ならできるといった高梁モデルとなればよい。具体的な各団体の横連結ができるような検討ができると非常に良い。

**(柏原委員)**

「川の水位情報」というサイトで監視カメラの画像や水位計による水位が、国県区間をとわずマップで一元的に見られるようになっている。

**(事務局)**

河川監視カメラは昨年、吉備ケーブルテレビの既設1か所と新規に7か所の8か所の放送を開始し、今年度はダムの放流の影響が大きい成羽川沿いの3か所など、計4か所を増設する。中国電力にもカメラの設置と画像の配信をお願いしている。また、高梁川流域の4市で連携し、上流から下流まで映像が見られるよう調整をしている。

**(三村委員長)**

一般庶民が見える形にならないといけない。吉備ケーブルテレビが中継として大きな役割を果たしていただく、情報の流れがうまくできる仕組みを具体的に考えていく必要がある。

**(吉原委員)**

避難所マニュアルの運用の枠組みについて、地域のリーダーになることがJCの目標であるため、関わらせてほしい。

防災士の資格取得について昨年検討したが、費用や日程、試験場所の問題で断念した。ぜひ一年に一回、二年に一回とかで高梁市で開催されれば参加できるかなと思う。

先日の大雨の時に、通行止めの情報が行き交ったが、正式な情報がわからなかった。SNSで、細かい情報でもいいので前面に出してもらえれば一般市民は助かる。

**(事務局)**

JCについても、市内団体として防災士取得費用の1/2補助の対象となる。

### **(加藤委員)**

自主防災組織と消防団の連携はかなりの団体で行っている。火災の時は若い人は日中仕事に行っているの、最初は自主防災組織が対応し、その後消防団が消火活動をするのが良い。水害は予測がつくので、団も気象状況を注視し、レベルが上がるごとに準備を進め、活動していく。避難誘導や要支援者の安否確認も、自主防災組織から分団長に要請してもらえれば、分団長が判断し対応する。分団長は要支援者の名簿（※民生委員が作成している名簿）を消防本部からもらっており、把握している。

防災士の資格については、分団長以上は取得しやすいので、現役中は難しいが引退後に防災士として活躍できる。

### **(神田委員)**

分団長以上は試験免除で防災士の資格が取れる。消防団と防災士の役割は被っており、地域の期待も大きくなっているため、現役の人に是非取ってもらいたい。

### **(赤木委員（代理：池田次長）)**

気象台では「あなたのまちの予報官」を編成し、顔の見える関係を作っている。自主防災組織のリーダー研修会に講師を派遣したり、市町の担当者を対象に気象ワークショップを開催した。そういった計画があれば、お声がけをいただければと思う。

### **(横林委員)**

社協は地域福祉を推進する団体ですので、「共助」について役割をはたしていかないといけない。社協の福祉委員が民生委員と協力し、発災時に要支援者がみんな避難できるように重点的にやっていく。

また、発災後に災害ボランティアセンターを立ち上げるが、コロナにより県をまたぐことが難しいため、地域の中でのボランティアの育成を考えている。

防災について考えると、まずは逃げるのが主になっていると思うが、その先を考えたなら市民の方々に復興にも協力していただかないといけないと考えている。

小中学校での出前講座で東日本の震災の現場に行った際にもらったDVDを見せると、リアルな映像が子ども達に響く。平成30年の豪雨災害の映像を活用してもいい。

### **(小川委員（代理：鈴鹿主幹）)**

熊本の豪雨災害で県も対口支援として、保健師と一般職員を派遣し、避難所運営を行った。

出前講座を色んな団体が色んなところで行っていることが分かった。県民局もイベント等で時間をもらえればどこへでも出向く。

有漢地域で県の地区防災計画作成のモデル事業をしており、避難支援個別計画の作成も含めた事業ですので、避難支援個別計画の作成も検討をいただきたい。

自主防災組織リーダーの研修会を実施しているので、ぜひ参加していただきたい。

### **(横山委員)**

学校も地域の一員であるので、協力していきたい。教育現場での防災教育としては、災害事故の防止、天気の変化、水の流れの働きなど教科の中でも指導したり、全校で避難訓練もしている。保護者を巻き込んだ活動として、引き渡し訓練をしている。マイタイムラインもできれば保護者と一緒に考えていくのもいい機会ではないか。

### **(中村委員)**

自主防災組織の責任がどこまであるのか。要支援者にアンケートを取り、名簿を作ろうと思っているが、どこまで助けに行くか、亡くなったら誰が責任を取るのか。逃げろと言われて逃げて事故

にあったらどうするのか。誰が責任をとるのかという問題がある。

また、自主避難の避難場所にも職員を1名はつけてほしい。

#### (三村委員長)

責任の所在の問題は、非常に難しい問題であり、全国の自治体が考えないといけない。

#### (事務局)

地域局単位・市民センター単位で各8名程度地域担当職員がおり、地域の行事に参加したり、災害時は避難所対応に従事する。自主避難所については、それぞれのコミュニティで運営していただきたい。ただし、連絡はきちんと取り合う体制を確立したい。

#### (赤木委員)

アンケートの回答数が484/1000ということで、市民の意識が低いと感じた。

行動計画については、消防の立場からは訓練が大事と思う。消防でも子どもをターゲットにして、イベントにはしご車を出したりすると、高齢者も一緒に来る。自主防災組織の訓練にも消防団と消防署が一緒になって、協力していく。

要支援者については、各分団長に名簿(※民生委員が作成している名簿)を配って、対応できる体制を作っている。

#### (柏原委員)

行動計画の取組の目標なかで「公助」の部分の「住んでいる地域災害に対す安全性・危険性を把握している人の割合」と「地域のハザードマップ持っている・見たことがある人の割合」については、「自助」の取組の目標とした方がいいと思う。「公助」の取組の目標は取組の方向性の内容と合わせ、情報発信と受取りに関する目標としてはどうか。

具体的な取組内容については市主体のものが多と思われる。全ての取組を同時に進めていくのは大変だと思うので、R6年の目標達成に向けて順々にやっていくよう手順を考えてはどうか。

#### (氏原副委員長)

取組の目標内の数値目標は、分かりやすく全て100%にすればよい。そして「防災都市高梁」を目指す。それがキャッチフレーズになる。市民にPRすることが重要となる。市は計画を立てても、市民への周知がない。

目標達成には、スケジューリングがかなり大切となるので、時間軸を持って、R6年までに早期に取り組む必要があるものとそうでないものの整理が必要。

#### (神田委員)

避難所マニュアルの運用で、うまく行った自主防災組織は自分のところで避難所マニュアルを作った自主防災組織。時間軸で1番に鍵を開ける、2番に看板を出すといった、実際にしないといけないことをはっきりと書いて、漏れがないようにしないと実行レベルでは難しい。避難所マニュアルは、テキストとしては良いが、さらにそこまで落とし込めば実行できるようになる。

## 4. 閉会

#### (氏原副委員長)

今回の行動計画を市民の方にきちんと周知していくことが重要。「防災都市高梁」を実現する。それぐらいの気概を持って取り組んでいきたい。最近「防災都市」が地域の魅力の一つになりつつあるので、高梁市全体の魅力の向上にも繋がっていくと思う。